

米軍基地いらんちゃフェスタ2016 米軍基地の撤去を求め750人が参加



いらんちゃフェスタ2016が11月6日、京丹後市峰山にある丹後文化会館で開催され、地元京丹後をはじめ、府内各地などから750人が参加しました。集会では、琉球新報編集局政治部長の島洋子さんが講演。米軍基地建設を憂う宇川有志の会の永井友昭事務局長が現地報告をしました。

11月6日丹後文化会館ホールでの集会。写真右は、琉球新報の島洋子編集局政治部長。

集会は、米軍基地建設反対丹後連絡会と米軍基地建設を憂う宇川有志の会の主催。京都府民の会とXバンドリーダー基地反対近畿連絡会が協賛しました。

島洋子さんは、講演で米軍基地にかかわる二つの問題を取り上げました。一つは米軍基地で経済が成り立っているという主張。もう一つは、抑止力のために必要との主張。島さんは、沖縄経済への米軍基地の寄与は全体の5%ほど。基地が返還された地域では、何十倍もの経済効果を上げていると事例をあげました。さらに、抑止力については、それほど軍事力を強化すれば抑止力となるのか誰も説明できないと述べ、こうした主張は誤りだと述べました。

憂う会の永井事務局長は、最近の基地の諸問題をスライドで説明しました。集会後、参加者は峰山町内を

府民の会 米軍による福知山での射撃訓練問題で京都府に緊急に要請

米軍基地いらない京都府民の会は、11月8日、京都府に米軍による福知山での射撃訓練問題について京都府に2回目の要請をしました。

これは、11月7日に京都府知事と福知山市長が、稲田防衛大臣に面会し、要請事項を示したことを受けて緊急に実施したものです。

要請には、梶川憲共同代表をはじめ6名が参加。京都府総務調整・塩見参事が対応しました。

【二面に続く】

デモ。「米軍基地はいらんちゃ」と市民に訴えまし



発行：米軍専用レーダー基地の設置の撤回を求める京都府民の会（略称）米軍基地いらない京都府民の会
連絡先：京都市中京区壬生仙念町30-2ラポール京都5階
京都総評内 京都憲法共同センター気付
☎075-801-2308 fax075-812-4149
過去のニュースは、URL：<http://www.labor.or.jp/sohyo/xband-home.html>で見ることができます。

府民の会学習会のお知らせ

北朝鮮や中国の動きを背景に、安倍内閣は、軍拡と、自衛隊と米軍との一体化を一層進めています。また、ミサイル防衛で迎撃命令を出し、あたかも国民を守るかのような幻想もふりまっています。果たして軍拡競争で問題の解決かはかれるのか？北東アジアの平和をどのように構築していくのかという根本問題とミサイル防衛の現実を学びます。

と き 12月5日(月) 午後6時30分～

と ころ ラポール京都第8会議室

内 容 北東アジアの平和構築とミサイル防衛
講演「北東アジアの平和構築のために何が必要か」(仮題)

講師 川田忠明さん(日本平和委員会常任理事、
日本共産党国民運動委員会平和運動局長)

報告1 現地報告
2 「京都の米軍基地とミサイル防衛」
片岡 明さん(府民の会事務局長)

【福知山での射撃訓練問題 1面からの続き】

府と市の防衛大臣への要請は、「事件・事故が発生」することも念頭に政府の責任を持った対応も求めています。府民の会は、そうであるなら訓練を認めないことを求めるべきだと、説明責任、自衛隊管理というごまかし、福知山までの経路の問題をあげ、射撃訓練の重ねての撤回・中止を求めました。

府の要請文は、この要請で承認したように受け取れるとの問いには、「防衛大臣が真摯に対応すると言っておりその回答を確認していく」「回答のなかみを見て判断していく」との回答でした。また、府の要請は「日数の縛りとか、フェンスで囲むとか、安全管理とか厳しい内容になっている」との認識を示しました。

府民の会からは、防衛省が自衛隊の規則にもとづいてやると言っているのは明らかにウソで、自衛隊と米軍との訓練の違いをはじめ、防衛省が約束したからと言って米軍が守るとは限らず、米軍管理で行われるとの防衛省の説明ほど危険なものはないなどを言い、撤回・中止を求めました。

2016年11月8日

京都府知事 山田啓二様

米軍基地いらない京都府民の会
代表委員 共同代表 岩崎 晃
京都基地建設反対府後連絡会代表 梶川 善
京都府評議者 岡田 英樹
京都平和委員会会長 高田 豊
京都自治労連委員長 森下 裕子
新陣人京都府本陣会長 中村 和雄
自由法曹団京都支部幹事長
安保政策京都実行委員会代表委員・
京都府議員 河川 隆洋
京都府商工団体連合会会長 久保田 憲一
京都民主派連絡会会長 尾崎 望
事務局長：京都平和委員会事務局長 片岡 明

京丹後経ヶ岬米軍レーダー基地所属の軍人・ 軍属による実弾射撃訓練についての要請書 (2)

貴職の日ごろのご活躍に敬意を表します。

京丹後市にある米軍経ヶ岬通信所中隊の米軍人・軍属が、陸上自衛隊福知山駐屯地にある射撃場で、本年11月から射撃訓練を年間20日間行いたいとしている問題について、昨日、貴職と福知山市長は防衛大臣に面会し、要請をされました。

要請文は、この間、さまざまな団体が要請してきたこともあり、自治体としても「米軍関係者による事故」を想定し、政府における適切な措置を求めています。そうであるなら、本来は、断固として米軍・軍属の訓練を認めない他に、住民を守る方途はありません。しかし、要請文の趣旨は、射撃訓練を認めることを前提とするものであり、容認できません。知事は、「国から要請の回答を正式にもらったうえで最終判断する」(8日付京都新聞)とされていますが、まず撤回・中止を求めるべきです。

それは、第一に、住民への説明は、いまだに福知山市「室」地域でしか行われず、他の地域や福知山市民は放置され、さらに、米軍基地から射撃場までの通過地点の住民にも何らの説明もないからです。射撃場近くのすべての住民と府民に何らの説明もない中での防衛大臣への「要請」は、認めがたいものです。

第二は、要請文は、「事故が発生しないよう万全の体制の確保」、「規律ある行動の確保」を求め、「必要最小限とする」などとしていますが、米軍と軍属が防衛省との約束を守った実績はそもそもありません。「自衛隊の管理・規則の下で実施すること」を求めています。過去の事例から、それはあり得ません。

この訓練は、自衛隊と同じ規程で行われることなく、米軍の管理のもとで行われます。福知山自衛隊駐屯地が日米共同使用と指定され、実施される米軍の射撃訓練が、自衛隊とは違う性格のものとなることは明らかであり、防衛省任せでは解決はできないものです。中止を要請すべきです。第三に、弾薬の管理、バスでの移動厳守など当然のことを求められています。しかし、これらがすべて守られる保証もありません。過去、米軍の弾薬管理のいい加減さは周知のことであり、経ヶ岬基地へのバスでの集団通勤は、現在も守られていません。福知山までの経路での交通事故が心配され、米軍まかせの運行管理は危険です。

私たちは、まずはすべての関係自治体と住民への説明を丁寧に行い、住民の意向をよく聞き、射撃訓練の撤回・中止を重ねて求めます。

以上